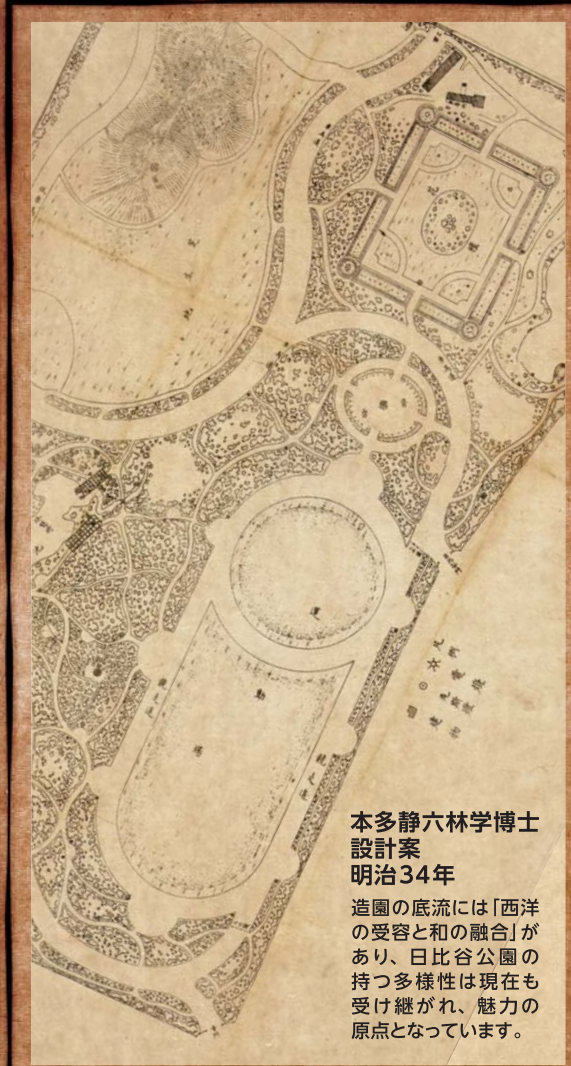


日比谷公園

歴訪ガイド

かつて大名屋敷が立ち並んだ地に、日本初の近代的な洋風公園として誕生した日比谷公園。園内では、様々な歴史とドラマを訪ねることができます。



本多静六林学博士
設計案
明治34年
造園の底流には「西洋の受容と和の融合」があり、日比谷公園の持つ多様性は現在も受け継がれ、魅力の原点となっています。

公益財団法人 東京都公園協会
発行 2018年6月

HIBIYA PARK

HISTORY GUIDE



1 車馬道

幅5.6間、総延長約1.7kmのS字型の園路はかつて馬車も行きました。開園時に植えられたイチョウ並木は、大戦中に切り詰められてしまったもの今なお健在。



2 首賭けイチョウ

道路拡幅工事で伐採寸前であったところ、公園設計者の本多博士が「私の首を賭ける」とまで言って東京市を説得、移植したものです。樹齢は400~500年。写真にはツツジ山と当時の松本楼の姿も。

9 見附石

見附跡の石を利用した腰掛けが園内あちこちに。

10 松本楼

開園以来、洋食は市民の憧れだった。

11 石橋

江戸時代は芝増上寺前に架かっていた。

12 京橋の欄干柱

明治8年築造、架け替えに伴い移設。

13 ツツジ山

江戸時代の名所、大久保のツツジ園より。



3 雲形池・鶴の噴水

ドイツの庭園設計図案をそのまま採用した池に、鶴が水を噴き上げる日比谷公園独特の景観を形成。一時はGHQに接收されダンスホールとなるも、優美な姿を取り戻しました。



4 第一花壇

開園当時の姿を今に残す洋風花壇。今となっては珍しい、チューリップ、パンジー、バラ、ダリアなどの洋花も、当時の市民にとっては驚きをもって迎えられました。



6 小音楽堂

日本初の野外音楽堂で、軍楽隊の演奏は市民に絶大な人気を博しました。その伝統は今日まで、消防庁や警視庁の音楽隊に引き継がれています。現在の建物は3代目。



写真：公益財団法人東京都公園協会「日比谷公園・歴史&魅力発見ガイド」国立国会図書館「デジタルコレクション」



7 運動場

大噴水や第二花壇の一角は、かつては運動場（大広場）としてスポーツとともに、様々な国家的行事の舞台にもなりました。写真は明治42年、伊藤博文の国葬の様子。

5 日比谷見附跡

石垣は、江戸城警備の城門のひとつ日比谷見附跡です。心字池の設計にあたっては「身投げの名所になっては困る」との声を聞き、石垣下に1間ほど地面を張り出したとか。



15 ハナミズキ

東京市からワシントン市に送った桜の返礼、その子孫。

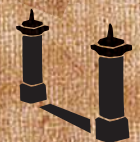
16 旧日比谷公園事務所

ドイツ風バンガロー様式で都の有形文化財。



8 日比谷門

明治36年の開園当時から残る6つの門の一つで、江戸城見附の枡形門の石が使われました。当時の写真と比較すると、大きく育った樹々が月日の流れを感じさせます。



開園当時から残る6つの門。
(霞門・桜門・有楽門・日比谷門・幸門・西幸門)

有楽門

日比谷門

幸門

西幸門

日比谷公園 歴訪ガイド